

五個荘見学と講演会



■日 時 :平成21年6月27日(土)

■参加人数:25名

能登川駅よりバスで、ようこそてんびんの里との案内の東近江農村環境改善センターで集合。TDA北川さんの案内で蔵の残る趣のある町並みを、説明を受けながら鯉の泳ぐ水路、舟板を使ってある美しい堀の路地を通り、近江商人屋敷めぐりのはじめは金堂と書かれた昔の消防ポンプが玄関におかれた藤井彦四郎邸へ、昔懐かしいおくどさんや五右衛門風呂、豆炭こたつなど、そして何より参加者の目を引き、盛り上がったのは壁に貼ってあった『妻女心得條』。男の方には妻に見せたい文面が、みんなカメラや携帯でしっかり写しておられました。外村繁邸の美しいお庭とちょっと変わった守護狸、昔の商人の必需品五つ玉そろばんや印籠も展示されていました。

中江順五郎邸では、滋賀県伝統工芸品の小幡人形の数々、なんとこの人形は二重まぶたとか。飾ってあったひな人形の着物も北川織物の麻と言うことで気品のあるスタイルでした。

外村宇兵衛邸では「近江の麻のれん展」伝承と発展の会場、ライフスタイル展の近江の麻も展示され、屋敷にとってもよくマッチしていました。ここからが本題の講演なのですがもっとじっくり見たい町並みや屋敷でした。

福本館長さんより司馬遼太郎さんの街道を行くでも紹介された近江商人屋敷内でのお話し。近江商人は近江以外で働いている人が近江商人という、そして先祖からの預かりものを守り継承するという考え方、儲けたお金は社会に還元する、そして日本の業界を支えていると言う自信と郷土愛が感じられました。

最後に坂東さんから「布の力」暖簾考の講演。落語家の様な着物姿でのお話し。映像ありの暖簾の歴史や種類、色によって紺は呉服屋、白は菓子、薬商など、柄の面白さでは、二十丸の暖簾の太陽と月を表したものの、昼も夜も働けと言う意味があることなど興味深い話ばかり、TDAとしてメッセージ性のある、何百年変化しないテキスタイルと言う締め言葉とシンボリックな映像を最後に、屋敷の人の雨戸を閉められる音と共に開きになりました。

その後、郷土料理のお店(樂ごろうえもん)で初参加の人も懐かしい人も布の力と言うことに改めて考えるきっかけになったとの嬉しい言葉も聞かれ、郷土料理の泥がめ汁にもみんな満足しました。

とっても有意義な1日になり布の力を信じながら仕事していきたいと思えます。ありがとうございました。(岩岡 利都子)